

来局患者における入院時情報提供に係る手順書の有用性の評価

総合メディカル（株） そうごう薬局 中津町店¹⁾、宇部新川店²⁾
和田 憲幸¹⁾、崎須賀 統²⁾

【目的】保険薬局において、患者が入院する情報を窓口対応で得た際、薬局から医療機関への情報提供を実施する判断や、情報提供書の記載内容が対応する薬剤師により差が見られる事がある。その差を解消するために、薬剤師の対応を統一する目的で入院時情報提供に関する手順書を作成した。手順書では、患者から情報収集する内容、入院先への連絡の取り方、情報提供書のひな型について明確化した。今回、薬剤師に対し入院時情報提供を行う割合（以下、情報提供実施率）、患者から情報収集する内容についての理解度、入院先に情報提供することについての理解度、入院先との連絡の取り方についての理解度（以下、入院時情報提供に対する理解度）を導入前後で調査し、手順書の有用性を評価したので報告する。

【方法】薬剤師 41 名に対して、取り組み開始前、情報提供実施率と入院時情報提供に対する理解度についてアンケート調査を実施した。その後 2022 年 4 月～6 月の期間において、入院時情報提供を行う際に手順書を用いて実施するよう依頼した。期間終了後、再度取り組み開始前と同様の項目についてアンケート調査を行い、取り組み前後での変化について分析した。

【結果】情報提供実施率が 75%以上と回答した薬剤師の割合は、取り組み前 15%から取り組み後 44%に増加した。「患者から何を情報収集すればよいかわからない」、「入院先に何を情報提供すればよいかわからない」、「入院先にどのように連絡をとればよいかわからない」という項目に対して、非常にそう思う・ややそう思うと回答した薬剤師の割合は、取り組み前はそれぞれ 41%、51%、59%であったが、取り組み後はそれぞれ 7%、12%、22%まで減少した。また上記の結果について、薬剤師の経験年数による有意差は見られなかった。なお、入院先や患者から情報提供を断られる事や、電子薬歴と情報提供書のひな形が連動していないため使い勝手が悪い事が理由で、手順書通りに情報提供出来なかった事例も見受けられた。

【考察】手順書を導入した事で、薬剤師の経験年数に関係なく、情報提供を行う内容や入院先との連絡方法における理解度が向上し、情報提供実施率が上昇したと考える。行うべき事の明確化を目的に運用を行った点で、手順書は有用であることが示唆された。一方で、医療機関、患者側のニーズや薬剤師側のハード面の課題も見え、手順書を改変していく必要があると考える。